れきしのこみち



小垣江南①小垣江神明神社



① 小垣江神明神社

【 おがきえしんめいじんじゃ 】

天照大神をはじめとする多く の神を祀る小垣江の鎮守。応永 6年 (1399) に出雲大社から遣 わされた柘植能成が祠官となり、 その子孫が16代にわたってこ の社に奉仕した。

祭礼には、おまんと(駆馬) が奉納される。



②親子松 [おやこまつ]

天正5年(1577)西尾城修理のた め、境内の松を伐採したところ、人 びとが失明・失神する災いが起きた。 驚いた城主が3000本もの松を植樹 するも、そのほとんどが枯れたり、 大風で倒れたりして、残った1本を 「親子松」と呼んだという。



③金刀比羅社 [ことひらしゃ]

創建年代は不詳だが、天明6年(1786)に四国の金刀比 羅宮に出向き勧請したと伝わる。社殿は何度も天災に遭って

おり、祭礼時に奉納されてい た山車の売却費用を社殿再建 に充てている。

現在は売却された山車の1 基が見つかり、地区で保管さ れている。



金刀比羅社

4 清水土場 [しみずどば]

土場とは物資を積み出し・荷揚げする船着場のことで、 江戸時代の清水土場からは米や瓦などが積み出され、瓦を焼 く燃料となる木材や畑の肥料にする草木灰・干鰯などが荷揚 げされた。明治以降も清水港と呼ばれ賑わったが、物資の輸 送手段が時代とともに船から鉄道や自動車に移りかわるにつ れ、使われなくなった。

5 曙庵跡 [あけぼのあんあと]

曙庵は刈谷の俳人中島 秋 挙が住んだ庵の名前であり、秋 挙のもう一つの号でもある。秋挙は安永2年(1773) 刈谷 藩士中島左守の長男として生まれた。享和2年(1802)致 仕し、自ら薙髪して曙庵と号し、名古屋の井上士郎の門人と なった。文政9年(1826)に53歳で没した。「曙庵跡」の 碑は平成6年(1994)の建立である。秋挙ゆかりの句碑は 司町の市原稲荷神社境内にある。

⑥ 法栄寺 [ほうえいじ]

創建は不詳であるが、寛延 元年(1748)誓満寺第6世 誓誉上人が、当地に堂宇を建 立し、法栄寺として中興する。 9世・10世住職(明治時代) の墓石に「筆子中」と刻まれ ており、当時この寺で寺子屋 が開かれていたと思われる。



州谷市 全域マッ7級

小垣江おがきえ

合わせ

猿渡川の左岸に位置する。数百年前は入江となっていて西の半 島状の台地の形から「かもめ島|「尾がきえ」と呼んだという。 近世までこの洪積台地の縁が海岸線となっていた。出郷の犬ケ坪 は幕末頃に分村したが、明治 11年 (1878) には再び当村に合併 している。近代は、同13年の明治用水西井筋の竣工により農地 の開拓が進んだ地域である。

刈谷市歷史博物館 お問い

TEL:0566-63-6100 FAX:0566-63-6108 http://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/

① 巡見橋 [じゅんけんばし]

江戸幕府は地方の実情を調べるために、何度か各地へ 巡見使を派遣した。巡見使の一行は、小垣江村から猿渡 川にかかる橋を渡り、刈谷藩の代官などの出迎えを受け て元刈谷村へ入って来たので、この橋は巡見橋と呼ばれ るようになったといわれる。

②北浦・半崎土場

【 きたうら・はんざきどば 】

土場とは、船着場として利 用されていた場所のこと。

この近辺は江戸時代には土場として栄え、年貢米などの積み出しや、伊勢参りの船で賑わっていた。常夜灯は文政7年(1824)のもので、もとは北の方にあったが、道路改修により現在地へ移された。



堂布士

3 渡し場 [わたしば]

ここに渡し場があったとされる。猿渡川を越えて、元 刈谷村の楞厳寺や崇福寺へ渡し船が出ていたと伝えられ ている。

4 超円寺 [ちょうえんじ]

創建は不詳である。当 初は天台宗であったが、 達賢法師により元禄期 (1688~1704)頃中興 された際、浄土真宗に改 宗する。



超円寺

5 地蔵 [じぞう]

超円寺入口の地蔵は、安永8年(1779)疫病により多くの死者が出たため、この地蔵を安置し祈ったところ収まったと伝わる。



6 観音寺 【かんのんじ】

草創は室町時代とされる。 寛永10年(1633) 楞厳寺 22世が中興したといわれる。 江戸時代、神明宮とあわせて 当寺に雨乞願いが多く出され ている。馬頭観世音菩薩を本 尊とする。



観音等

● 専称寺 [せんしょうじ]

応永7年(1374)、伊勢一身田真宗高田派として開かれ、

寛文元年(1661)浄土宗に 改宗した。寛政2年(1790)、 一揆の発端ともなった寺参 会が野田の昌福寺とともに 当寺で開かれた。本尊の阿弥 陀如来立像は恵心僧都の作 と伝わる。



粤称守

⑧ 秋葉神社貝塚 [あきばじんじゃかいづか]

文政 9 年(1826)創建とされる秋葉神社の周辺に広がる貝塚で、前川右岸の台地縁辺に立地する。マガキやハイガイを主とらる貝層からは平安時代の灰釉陶器や鎌倉時代の山茶碗が出土している。とくに平安時代の製塩土器が多く出土しており、当時は貝塚の前面まで衣ヶ浦が入り込み、海水から塩を作っていたことを物語る。



秋葉神社貝塚

9 誓満寺 【せいまんじ】

永正期(1504 ~ 1520)頃に真宗高田派の法栄寺として創立され、承応元年(1652)尾張建中寺の末寺となり、 浄土宗に改宗し誓満寺と改めた。

昭和20年(1945)、三河地震により本堂は全壊するが、 本尊の阿弥陀如来は奇跡的に無事であった。



誓満:

□ 紫雲寺 [レラルじ]

浄土宗の寺院である。高須村出身の女性むらが専称寺で 利髪し紫雲尼を名乗り、寛保3年(1743)1 宇を建立した。 その名から紫雲庵と称した。宝暦13年(1763)現在の地 に移り、明治13年(1880)に紫雲寺と改める。



紫雲寺